

2026年3月期 第3四半期

決算補足資料

株式会社RYODEN

2026年2月
東証プライム
証券コード 8084

2026年3月期 第3四半期決算のポイント



- 売上高は、[前年同期比 3.1%減](#)
- 営業利益は、[前年同期比 9.7%減](#)
- 経常利益は、[前年同期比 8.1%減](#)
- **冷熱ビルシステムの収益力強化**
- **X-Techが順調に黒字化継続**
- **エレクトロニクスの国内車載向け好調**
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、[前年同期比 19.8%増](#)
- **関係会社株式の売却等に伴い、特別利益を計上**
- 2026年3月期通期予想は据え置き



-
- 1. 2026年3月期 第3四半期決算サマリー**
 - 2. セグメント別の実績・見通し**



1. 2026年3月期第3四半期決算サマリー

2026年度3月期 第3四半期決算サマリー



(百万円)

2025年3月期
第3四半期実績

2026年3月期
第3四半期実績

増減

2026年3月期
見通し

売上高

158,833

153,844

△4,989

215,000

FA

35,303

36,120

+ 817

51,400

冷熱ビル

23,415

26,508

+ 3,093

38,100

X-Tech

6,578

6,034

△544

8,700

エレクトロニクス

93,576

85,218

△8,358

116,800

営業利益

3,488

3,151

△ 337

5,500

経常利益

3,831

3,519

△312

5,600

当期純利益

2,846

3,409

+ 563

5,000

配当

136円

(中間68円
期末68円)



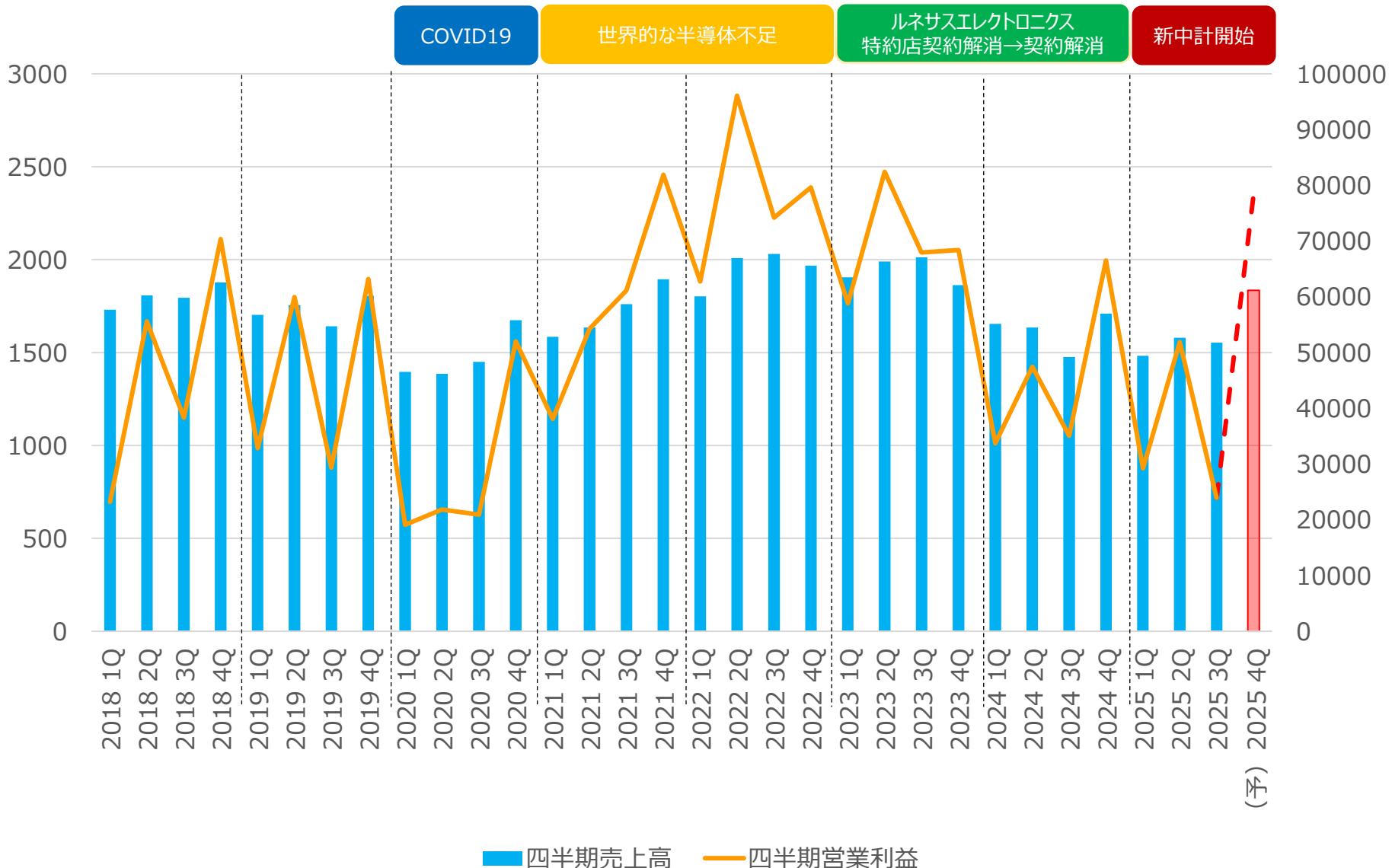
財務の状況

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期 第3四半期実績	増減
総資産	141,995	147,996	+6,001
負債	52,782	58,022	+5,240
純資産	89,213	89,974	+761
自己資本比率	62.7%	60.7%	△ 2.0pt
(百万円)	2025年3月期 第3四半期実績	2026年3月期 第3四半期実績	増減
営業活動CF	15,441	9,508	△5,933
投資活動CF	△19	△1,372	△1,353
財務活動CF	△2,577	△2,864	△287
現金及び現金同等物	31,385	38,173	+6,788

売上高・営業利益の四半期推移 (予定含む)



(単位：百万円)





2. セグメント別の実績・見通し



セグメント別の業績一覧

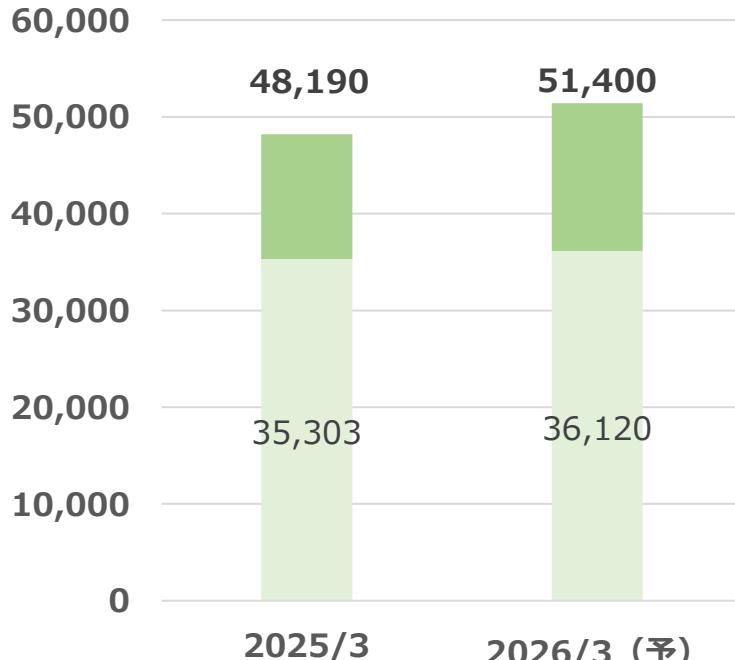
		前第3四半期 連結累計期間	当第3四半期 連結累計期間	増減率 (%)
FAシステム	売上高	35,303	36,120	2.3
	営業利益	945	645	△31.8
冷熱ビルシステム	売上高	23,415	26,508	13.2
	営業利益	1,135	1,343	18.3
X-Tech (クロステック)	売上高	6,578	6,034	△8.3
	営業利益または 損失(△)	△50	84	-
エレクトロニクス	売上高	93,576	85,218	△8.9
	営業利益	2,130	2,257	6.0

(注) 事業別の連結売上高は百万円未満を切り捨てし、合計値はすべてを集計ののち、百万円未満を切り捨てて表示しています。また事業間の内部取引の金額が含まれています。

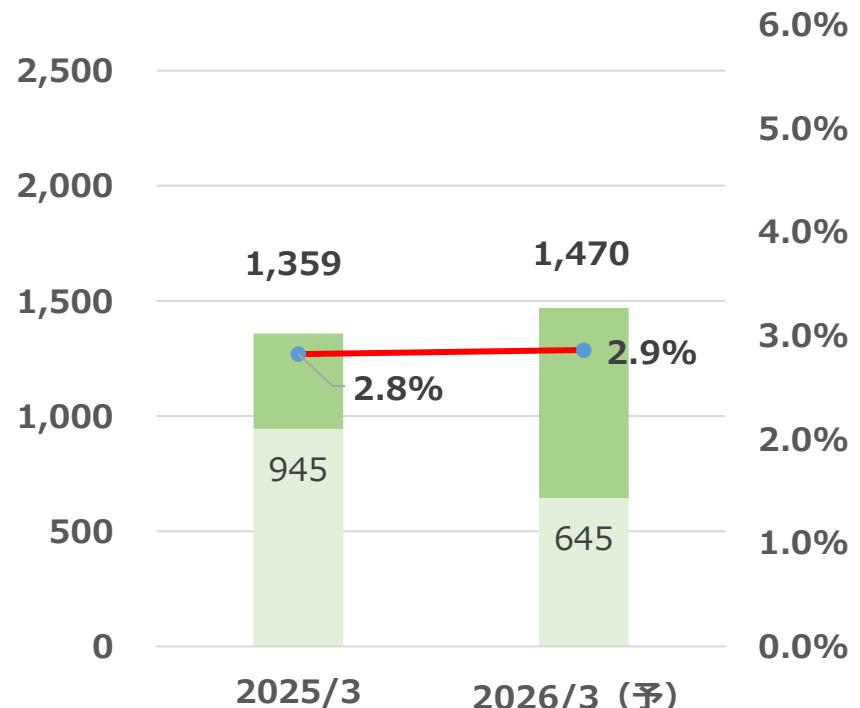
冷熱ビルシステム、X-Tech、エレクトロニクスは増益

X-Techの前年度は連結子会社の計上月数の関係で減収

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

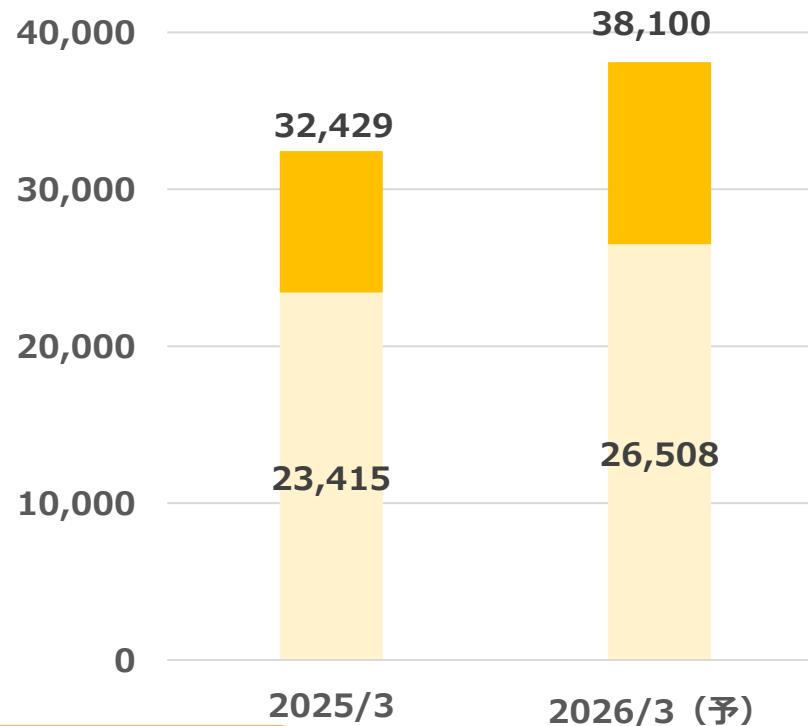


主なポイント

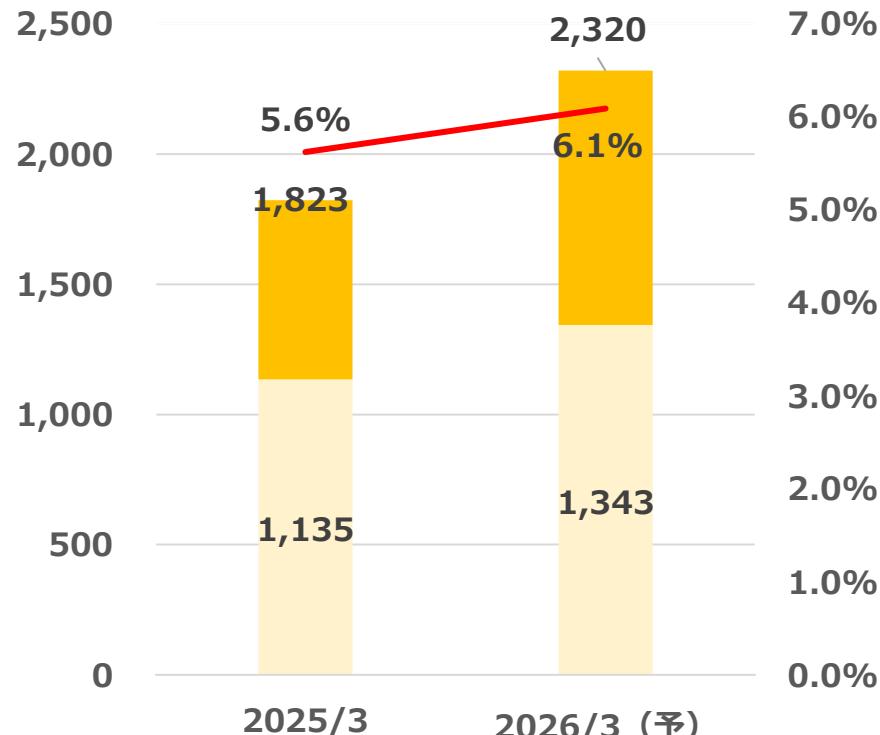
FA分野では、盤メーカー向けの販売は堅調を維持し、北海道における代理店権の獲得などの事業領域拡大に取り組みましたが、エンドユーザー等の回復が遅れしており、主要取扱品の販売は低調に推移しました。

第4四半期～来期に向けて事業環境の段階的な回復を見込んでいます。

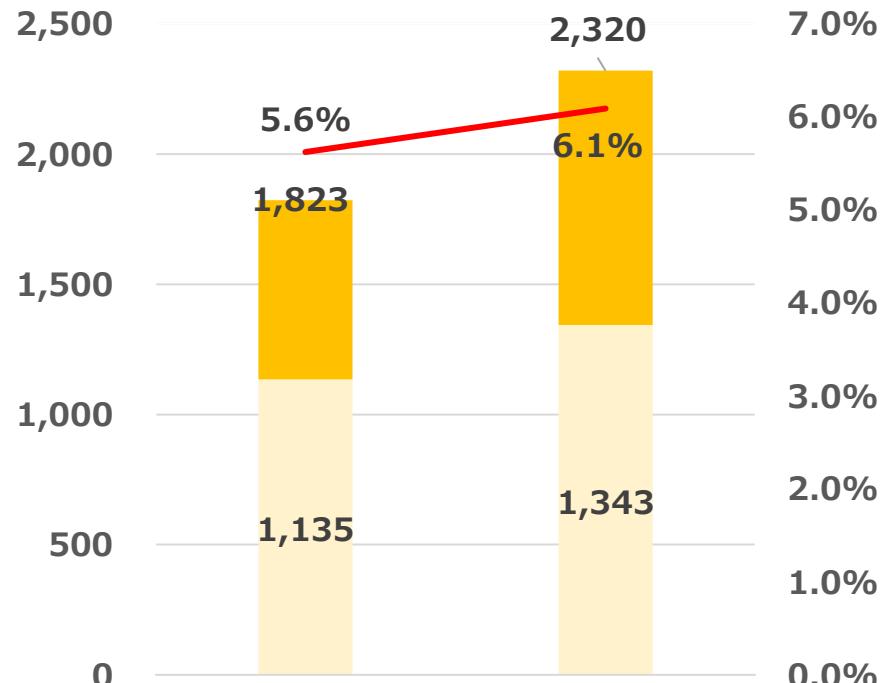
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

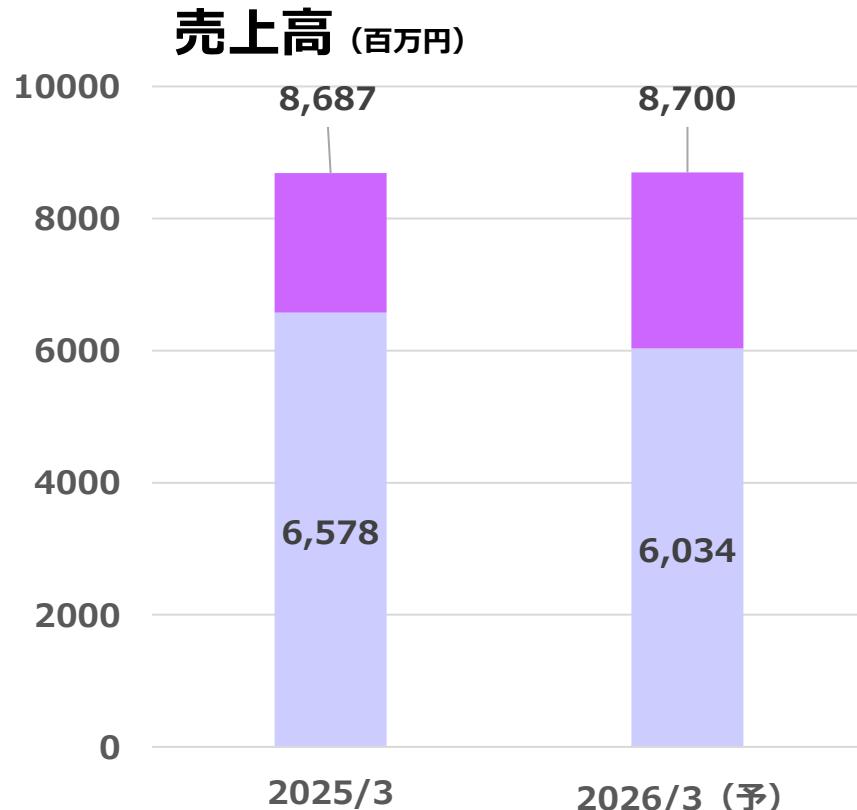


営業利益率 (%)

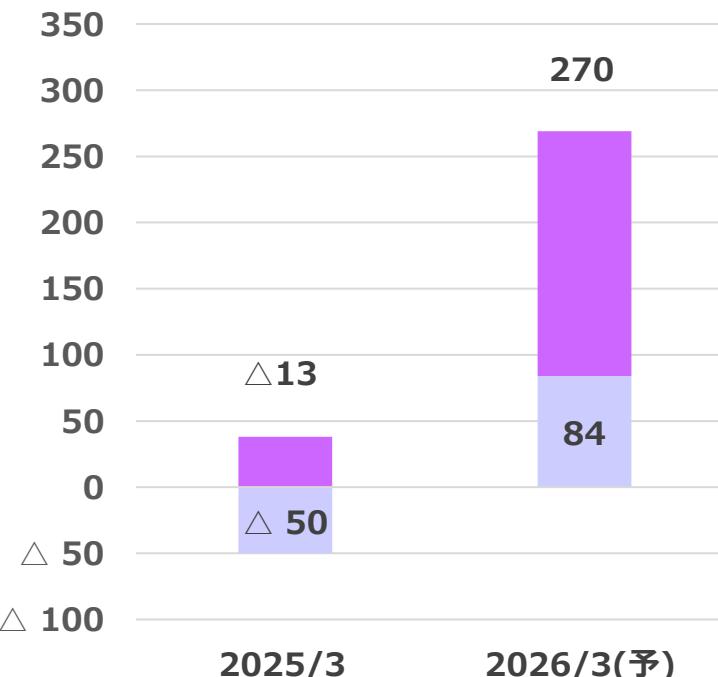


主なポイント

- ・冷熱分野では、職場環境改善や暑熱対策といった社会課題への対応需要を捉え、店舗・設備用エアコンなどの空調製品販売が伸長し、工場・倉庫、学校向けの施設物件が堅調に推移しました。
 - ・ビルシステム分野では、建設市場の不透明感もあり昇降機販売は低調に推移しましたが、年度末に向けた産業用蓄電池などのエネルギー関連分野の商談は増加しました。
- 第4四半期～来期以降も、引き続き好調に推移すると見込んでいます。



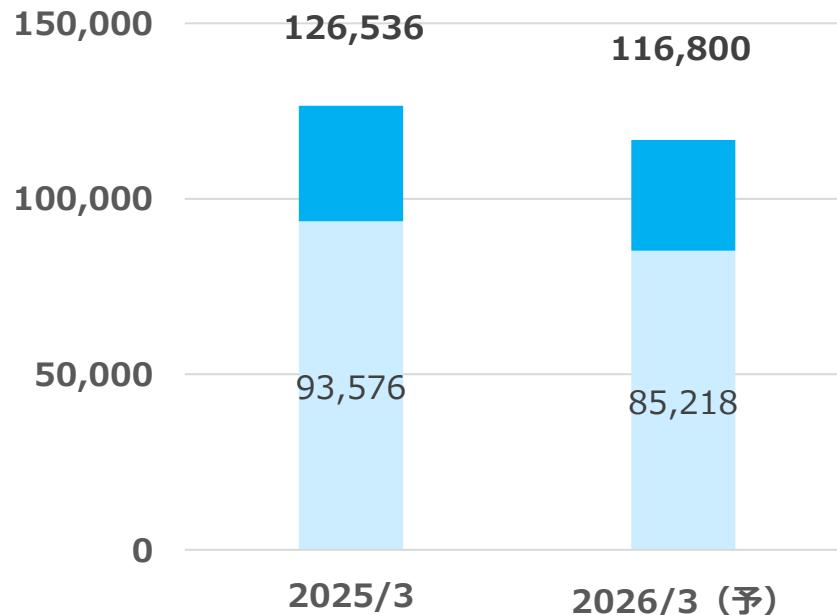
営業利益または損失 (百万円) 率 (%)



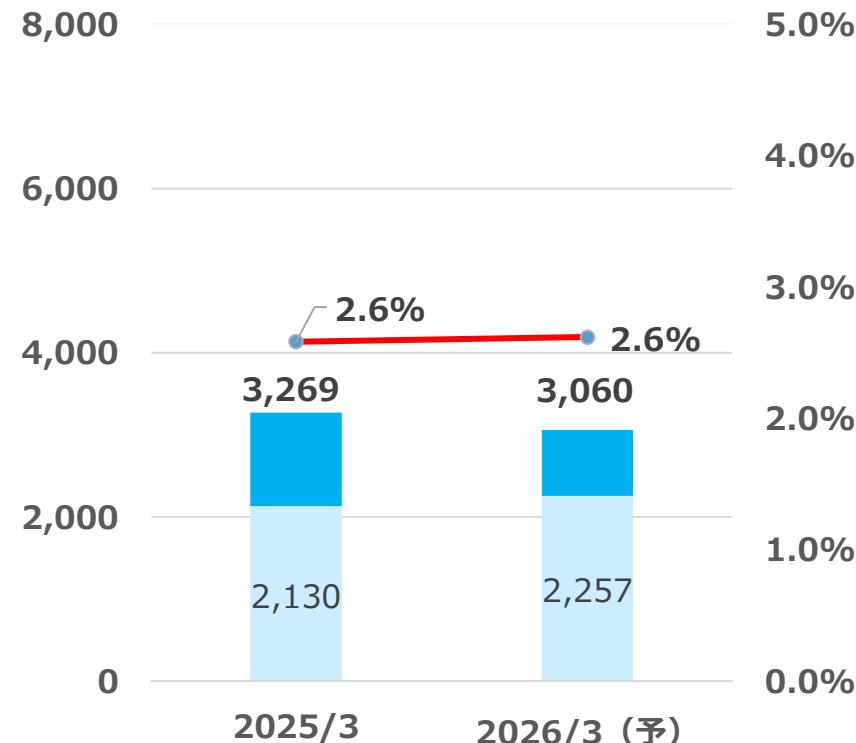
主なポイント

- スマートアグリ分野では、植物工場野菜販売におけるトップシェアを維持しています。また、植物工場事業で培ったきた光合成を最適化する技術を用いた光合成生物に関する受託研究、コンサルティング、テストプラントの受注も堅調に推移しました。
- ICT分野では、メモリーのコスト増と供給問題により、PCやサーバーなどのIT機器が影響を受けたものの、ビデオマネジメントシステム (FlaRevo) やRFIDなどの高付加価値製品の販売が堅調に推移しました。
- ヘルスケア分野では、電子カルテ向け関連機器の販売は伸長しましたが、医療機関の設備投資減速は継続しており、低調に推移しました。

売上高 (百万円)

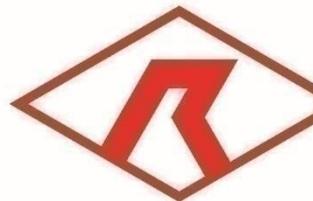


営業利益 (百万円) 営業利益率 (%)



主なポイント

- ・国内では、車載市場は全般的に堅調に推移し、データセンター向けは好調を維持しているものの、産業機器市場では、顧客の中国向け販売落込みからの回復も弱く在庫調整が長期化、民生関連市場も全般的な低迷が継続していることで、全体としては低調に推移しました。
- ・海外では、民生市場はエアコン・OA機器向けが堅調に推移しましたが、産業機器関連・車載関連向けは中国を中心として、いずれも低調に推移しました。第4四半期～来期に向けて事業環境は緩やかな回復を見込んでいます。



RYODEN

〒102-0083 東京都千代田区麹町五丁目 1 番地
麹町弘済ビルディング
総務部 IRグループ
e-mail:ryoden_ir@mgw.ryoden.co.jp

資料の取り扱い上のご注意

このプレゼンテーションで述べられている業績計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- ・主要市場（日本、アジア等）の経済状況、消費動向及び製品需給の急激な変動
- ・ドル等の対円為替相場の大幅な変動
- ・資本市場における相場の大幅な変動等